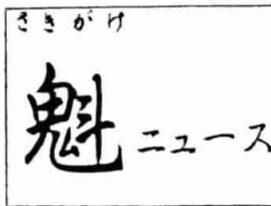


平成 16 年 1 月 5 日



新年明けましておめでとうございます

旧年中賜りましたご愛顧に深謝いたしますとともに本年も倍旧のご愛顧を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

今年も穏やかで平和な新年を迎えることができ、何よりのことと感謝したいと思います。世界のあちこちで何千万の人々が天災や人災で苦しんでいるのを知りながら、なにもせずただ感謝しているだけでよいのかと、多少の呵責をおぼえます。イランの地震は神戸より低いマグニチュードでありながら、死者は 4 万人を上回るとか、想像を絶する悲惨さであります。復旧のための協力を、わが国は積極的に取り組んでほしいものです。すでに日本赤十字社が医療チームを派遣していますが、援助の範囲と規模をさらに広げていかねばならないと思います。日本にもいつまた起こるかわからない地震です。そのとき慌てふためかないための備えが大切ですが、そんな災害に出会ったとき、人の情けが身にしみます。無事であるお蔭を精一杯お返しすることが何より大切なことと思います。

さて、昨年から景気の風向きが変わってきたように言われてきています。本当にそうだと実感される方もおられるでしょうが、大方の方はそのようには感じておられないのではないのでしょうか。輸出の好調、わけても自動車、デジタルパーツ、鉄鋼が好調で全体の数字を押し上げていますが、消費は低迷したままであり公共投資は絞りを一段と強めているから、個別には厳しい状況が続いていると感じておられるところが多いのではないのでしょうか。

ところが、お隣中国は絶好調で、海外からの投資も高水準が続き、輸出も好調で外貨を稼ぎ、原材料の輸入が大幅に増加しています。高所得層が増え、自動車の販売台数がうなぎのぼりに上昇しています。旺盛な需要は原材料の価格を押し上げ、長く低水準にあったものが最近目立って上昇してきました。非鉄金属もそのひとつであります。アルミナ国際価格は昨秋の 1 トン 140 ドルが現在は 350 ドルに高騰し、電力代と運賃を考慮すると生産コストは 1600 ドルを超すとされ、現在の地金価格では採算割れになり、アルミ地金の供給過剰の流れに変化が始まりました。銅はさらに深刻で精鉱（鉱石）購入条件の改訂で日本の産銅会社は精錬加工費が圧縮され、減産せざるを得なくなっている。中国やインドが高買いするので供給サイドの腰が強くなっている。電気銅の国際価格は昨年年初 1500 ドルが年末には 2250 ドルと 5 割上昇しています。中国の経済成長率が今のような調子で続けば、原材料の価格高騰はまだまだ続きそうな感じがします。電気銅の建値は円高の関係で 280 円で越年しましたが、昨年年初の 1 ドル 130 円の水準であれば 330 円になっています。鉱山の開発や閉山の再開には日時を要し需給のアンバランスの解消は相当先のことになり、

本年は 1 年を通して原料高の影響を免れないでしょう。素材価格の上昇は川下産業の厳しい抵抗を受け、川中に位置する加工産業や流通は川上産業の厳しい攻勢のあいだに挟まれ、苦しい展開になることが懸念されます。

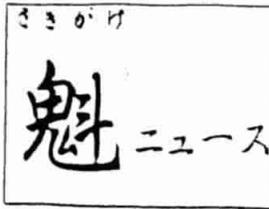
奈良の春日大社の宮司さんから教えられたことですが、神様に対する一番の罪は何か。それは「持ち越し苦勞」と「取り越し苦勞」だといわれています。「持ち越し苦勞」というのは、過去のことをいつまでもくよくよ引きずっている人のことで、「取り越し苦勞」というのは未来を心配する人のことです。すべては神様にお任せして今できることに最善を尽くすことが本当の人生だと。今年もいろんな困難が待ち受けているでしょうが、どんな困難も乗り越えてよき 1 年になるよう努力したいと思います。

最後に、皆様のますますのご健勝とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

取締役社長 山内 莊作

☆ 1 月の魁基準建値は 2 8 7 円/kg です

昨年 12 月の電気銅建値は 1~14 日 270 円 15~26 日 280 円で推移し平均銅価は 274, 73 でした。今月の建値は一挙に 20 円上がり 300 円でスタートしました。したがって 1 月の魁基準建値は $(274, 73 + 300) \div 2 = 287, 36$ 円未満切捨て 287 円になります。価格帯は 250 円超え 300 円以下の欄になり前月と変わりません。しかし電気銅建値が一挙に 20 円上がることは 1999 年 6 月 210 円から 230 円に上がったとき以来のことです。

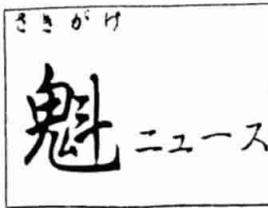


2月1日から日本のプロ野球球団が一斉にキャンプインした。これから2ヶ月間、開幕戦にむけて心技体を磨く練習をしっかりとやって、4月には颯爽としたプレーを見せてほしい。野球ファンにとっては待ち遠しい春がもうすぐくる。今年も元気をもらえればと心ひそかに願っている。

狂牛病、鳥インフルエンザと矢継ぎ早に食肉業界はセンセーショナルな異変に襲われている。ために外食チェーン店は対策に大苦である。消費者は選択の余地を残しているのであわてる必要はないが、価格の上昇はまぬかれない。鳥インフルエンザに関しては、人から人への伝染の疑いも出てきており、また鳥インフルエンザのウイルスが他の家畜に入って変異する可能性もあるともいわれ、今ひとつ定かではないが新たな心配の種が出てきた。人類は増加する人口の食糧を確保するためさまざまな工夫をこらしてきたが、家畜や魚類は大量飼育や養殖によりその供給を増やしてきたが、経済性を追及する諸策が一方で予期せぬ弊害をもたらしている。家畜や魚類の病原菌を退治するためのさまざまな薬用物が新たな耐性菌を生み、その輪廻にエンドはない。それを食する人間がその影響を免れることは不可能なことである。農作物の遺伝子操作による品種改良も盛んであるが、形は同じでも成分の変わったものが出回るのは問題である。人類が自然界に人工を入れ、自然界の秩序をゆがめていくあるいは壊していくことによって、その反動が人類にさまざまな新たな変異をもたらすのは必然で、地球の温暖化、オゾン層の破壊などもその一例である。鳥インフルエンザがそのようなものでないことを祈るばかりだが、仮にそうだとした場合、将来治療薬のないウイルスが人類を襲い、何千万もの人々が犠牲になることが起きないとは限らない。持ち越し苦労と取り越し苦労はしないほうがよいと教わったが、用心して知恵を働かすに如くは無い。

☆2月の魁基準価格は306円/kgです

1月の電気銅建値は5～23日300円26～30日310円で推移し、平均銅価は302,63円でした。2月の電気銅建値は310円でスタートしましたので2月の魁基準建値は $(302,63+310) \div 2 = 306,31$ 円未満切捨て306円になります。従って2月の価格帯は1ランク上がり300円を超え350円以下の欄になります。この価格帯は平成9年10月いらいのことで実に75ヶ月ぶりのことになります。

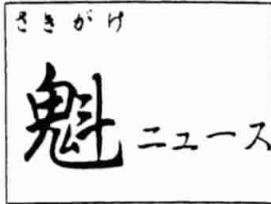


今日から奈良東大寺の修二会の行が始まり 15 日まで続く。これが終わると本格的な春の到来である。関西では昔からお水取りが終わるまでは寒くて当たり前としてきたものだが、今年は 4 月や 5 月のころの気温まで上がる日があつて、すこし変である。このへんが地球温暖化の徴ということだろうか。

昨年後半から、鉄鋼の値上がりに始まり、少し遅れて非鉄も上がり始めた。その勢いは今年に入って加速して、最近ではメタルインフレと言われるように激しく異常にすら思える。物価は基本的には需給関係で左右されるが、近年は安い労働力で生産される商品がグローバルに流通し世界的にデフレ現象が続いていたため、様変わりの現状に戸惑いを感じるのも当然である。しかし、冷静に考えればこうなるのも当然といえようし、また一方この価格高騰がいずれ屈折点を迎え修正されることも確かである。価格が上がりすぎれば在庫調整がはいり、生産者は増産に入る。需給関係が変わり価格は下落に向かう。中国の著しい高度成長、タイ、マレーシアなどの発展をみると、まだ先のことも考えられるが、日本が高度成長経済を歩んでいたときの景気の循環と同様、中国もバブルに近い高度成長が金融引き締めの影響を受けて落ち込む場面が予測され、今年の後半は充分注意する必要がある。日本の経済はアメリカの影響を受けて変化してきたが、これからは中国の影響が高いウエイトを占めるようになり両国の動向を見定めていくことが肝要になる。

☆3月の魁基準建値は351円/kgです

2月の電気銅はめまぐるしく変わりました。2~4日 310円 5~12日 320円 13~17日 330円 18~22日 340円 23~27日 360円と上昇を続け平均銅建値は333円68銭でした。3月の銅建値は370円でスタートしました。したがって3月の魁基準建値は $(333,68+370) \div 2 = 351,84$ 円未満切捨て351円になります。この結果価格帯は1ランク上がり350円超400円以下の欄に変わります。この価格帯は平成4年9月以来のことで実に11年半ぶりのことになります。景気の状態を思うとき、恐縮に存じますが皆様のご理解とご協力を節にお願い申し上げます。

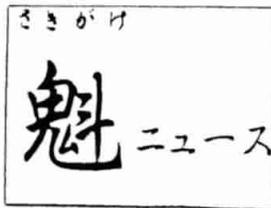


4月は桜前線が日本列島を北上する。暖冬の影響で開花予想は平年より10日ほど早くなるといわれていたが、3月末の冷え込みで程よい頃になった。入学式の記念写真には葉桜より満開の桜がふさわしい。この桜も古より歌に読まれ愛でられてきたが、今、われわれが観る桜はほとんど染井吉野である。江戸の染井(今の東京都豊島区駒込町)の植木職人が生み出した新種で、挿し木で成長も早く、花びらも大きく密に咲くので、人気があり、明治になってたちまち全国に普及したそうだ。日本で生まれその美しさと散り際の潔さが、御国のために命を惜しむなど大和心のシンボルになされていた戦中のことを知る人も少なくなり、花見酒でカラオケを楽しむ人々で桜の名所は騒々しくにぎやかで宴の後はゴミの山になる。若いころは暖かくなって季節はよいし仲間と楽しむことが目的の花見で、桜は脇役に過ぎなかったが、さて桜を賞でるとなるとソメイヨシノより山桜、彼岸桜、枝垂桜などソメイヨシノ以外の桜に興味が行く。秀吉や西行法師や古の人々が愛でていた桜である。岐阜県根尾の薄墨桜は継体天皇が若きころ植えたと言われているが、今の桜が孫かひ孫か知らないが、60年ぐらいといわれる寿命のなかで、永く咲き続けてきたその生命力には畏敬すら覚える。NO244号にご紹介した国の天然記念物に指定されている名木の一つだが、今年こそ拝観したいと思っている。

マクロの景気指標がよくなり、株式市況も底値から4割強値上がりし、金融機関の含み損が益に転じ、円高が進み、ようやくトンネルから抜け出たかに見える日本経済だが、まだまだトンネルから抜けられない業種が多く、格差が開き、2極化が進んでいるように思える。鉄、非鉄、樹脂あらゆるものが値上がりし、原料高による製品価格の値上がりの動きがこれから本格的になるだろうが、需要の低調ななかでどこまで浸透するか不安もあり、企業間の力の差が鮮明になっていくように思われる。企業の存続をかけた戦いの天王山の幕は切って落とされたところで、これから始まるのだと思わねばなるまい。

☆4月の魁基準建値は371円です

3月の電気銅建値は1~7日370円8~10日380円11~15日370円16~22日380円23~31日370円で推移し平均銅価は373,47円でした。4月の電気銅建値は370円でスタートしましたので4月の魁基準建値は $(373,47+370) \div 2 = 371,73$ 円未満切捨て371円になります。価格帯は前月同様350円超400円以下の欄になります。



風薫る 5 月、青葉、若葉がそよぎ、つつじ、藤、からたち、桐などさまざまな花が緑に映える。半袖シャツにカラッとした空気が心地よくしばし体の軽さを感じたりするのもこの時季ならではのことだろう。今年は 5 日連続の休みになったので家族で休日を満喫された方が多かったのではないかと思う。

さて、このたび、建材用銅板、条メーカーよりロールマージン改善の要請を受け、その流通を担う私どもからもお取引先各位のご理解とご協力をお願いしていることはすでにご承知のことと思います。かつて、板条を製造する伸銅メーカーはその殆どが建材用銅板条を製造し販売していました。しかし、典型的な市況商品として常に価格競争が激しく採算割れをまぬかれず、稼働率を維持する必要があるときのみ生産し、受注状況が好転すればその生産を絞るメーカーもあり、不況に供給圧力が異常に高まり建材用のウエイトの高いメーカーの経営を圧迫するという傾向もありました。

しかし、情報化時代が到来し、半導体をはじめとして広い分野に、導電性、耐食性、加工性に優れた伸銅品の需要が高まるにつれ、多くのメーカーはその成長性に注目し、高度化するニーズに対応する新合金の開発、高精度高速度の圧延設備などに投資し、付加価値の高い商品の製造の割合を高めてきました。当然償却費も嵩み、付加価値の多少が需要選択のキーになり、ターゲットとする需要分野を絞りその分野のトップシェアを目指しそれぞれ特色を発揮し安定した企業成績を持続できるように努める。その結果、建材用板条の生産から撤退するメーカーが増えてきて現在は 2 社に絞られたといってもよい状態になりました。この 2 社においても需要が落ち込んだ現在では建材用は板条全生産量の 2 割以下であり、それを満たす代替需要を確保すれば、付加価値の低い生産から撤退することがあったとしても不思議ではありません。したがって、この 2 社が採算の取れる分野にし、供給責任を維持しようとするのは当然ともいえる成り行きだと考えられ、流通に携わるわれわれもメーカーの要請を受け入れ、健全な市場の発展のため協力しなければならないと思います。どうか各位におかれましても、流通市場に身をおく同じ立場の仲間として、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

近年、他資材の耐久性の向上の影響を受け銅板条の需要が順に減少しているのはまことに遺憾であります。酸性雨の影響により銅板は穴が開くといわれるようになったことも需要減に影響しているとも言われます。しかし私どもが知る範囲内で考察することであるが、瓦の下(腰ぶき)とか樋に発生が多いことから見て、適切な工法や処置を施すことで避けられることであり、屋根材としての長所を全否定される次元のことではありません。むしろ憂慮すべきは銅の特性を正しく理解し、適切な工法で施工できる匠が老齢化し絶対数が不足

することが銅屋根の需要減に及ぶ恐れがあることです。そのような流れをとめるためには銅屋根の魅力を高め愛好する人口を増やすことに、力を入れねばなりません。メーカーの採算が改善され PR に力を注いでもらえるようにすることがこれからの大切な課題だと思うのです。

☆5月の魁基準建値は361円/kgです

4月の電気銅建値は1～5日370円6～18日360円19～22日370円23～30日360円で推移し平均銅価は363,33円でした。5月の建値は360円でスタートしました。

したがって5月の魁基準建値は $(363,33+360) \div 2 = 361,66$ 円未満切捨て361円になります。魁の価格帯は前月同様350円超え400円以下の欄で変わりません。

さきがけ

魁 ニュース

なんとまあ。入梅のはやいこと。例年なら6月の中ごろに始まって7月学校の夏休みが始まるころに明けるはずだ。この分では盛夏の訪れも早くなるのだろうか。行革がわれわれがびっくりするほど早くなるのなら結構なことだが、この方は亀の歩みどころか亀が昼寝を決め込んでいるようでさっぱり進んでいない。国も地方自治体も借金膨れで身動きつかない状態になっているにもかかわらず、民間企業の構造改革を横目に、公務員が退職前に給与を上げて退職金の嵩上げをする悪習が続いていたなどと聞くと、腹立たしくこの怒りをどこかにぶつけないと収まらない思いに駆られる。小泉さんも言ってることは悪くないが実行力はいまいちに思われる。外交もへたくそである。北朝鮮の小出しで援助の約束を取り付ける戦略にはまってしまって、振り回されているように見える。5人の人質を連れて帰るだけで1000万ドルと米25万トンの子供の使いといわれても致し方なかろう。多くの拉致被害者の調査を前から要求しているにもかかわらず、白紙に戻して調査するという回答だけではあまりにも腰の弱いへたくそな外交だと批判されてもしょうがないところである。小泉さんは金正日はなかなかのしたたか者であることを誰よりも強く思い知ったのではなかろうか。そして一方ではみな何を言うとか、損して得取れだよと思っておられるのかもしれない。

☆6月の魁基準建値は358円です

5月の電気銅建値は1～10日360円11～13日350円14～18日360円19～24日350円25～30日360円小刻みに変わりましたが平均銅価は356,31円でした。6月の建値は360円でスタートしましたので、魁基準建値は $(356,31 + 360) \div 2 = 358,15$ 円未満切捨て358円になります。価格帯は350円超え400円以下の欄で前月と同じです。



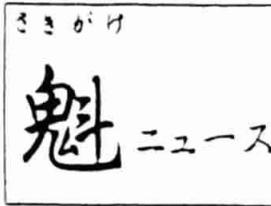
今年の入梅はいつもより少し早かったが、降雨量は今のところ平年より少ないように思われる。台風が来てなければ空梅雨といってもいいほどである。

3年ぶりの参議院選挙が始まった。二院制の求める本来の参議院のありようが消えて衆議院同様多数政党の支配する今日の参議院の状態では参議院不要論が出るのもむべなるかなと思う。年金改革案議決を急ぎ、今回で議員を辞職する西川きよし議員の最後の質問の機会を奪ったことなどに、良識の府として衆議院をチェックする参議院のありようとは遠い姿を見る。今回の選挙では年金問題が大きくクローズアップされているが、25年後50年後を見据えて改革を図らねばならない重要な問題だけに、どの政党にそれを託するかよく考えて投票することが肝要である。投票はわれわれが国政に参加できる唯一の機会であるからこれを放棄するのはもったいないことだ。

三菱自動車が揺れている。積年の欠陥隠しが吹き出てきて連日新聞紙上をにぎわすことになり、顧客離れが進んでいる。結束の固い三菱グループの企業にとっても頭の痛いことであろう。累積赤字を消すため増資をしても、製品の売り上げが計画の半分もいかない状態では再建は可能なのだろうかと案じられる。過日の株主総会でも退場論が出たと言われている。コンプライアンスという言葉が昨今耳にするが、遵法精神を軽視し、社会的制裁を受け、存亡の危機を迎えるような事態を招いた経営者の責任はまことに重い。われわれも他山の石として経営者の社会的責任の重さをわきまえ、過ちを起さぬよう努めねばならないと思う。

☆ 7月の魁基準建値は343円/kgです

6月の電気銅建値は1～8日360円9～13日350円14～30日340円で推移し、平均銅価は346,82円でした。7月の電気銅建値は340円で始まりましたので、魁基準建値は $(346,82+340) \div 2 = 343,41$ 円未満切捨て343円になります。価格帯は1ランク下がり300円超え350円以下の欄になります。



春夏秋冬の四季のめぐりの中に梅雨という季節が春夏のあいだに一ヶ月強あって、蒸し暑く、雨がよく降りカビの生えやすい、じめじめした嫌な時期がある。それがあけて太陽がジリジリと大地を焦がす盛夏を迎えるものだったはずだが、今年はまったく雨が降らず、梅雨期の終わりごろになって、新潟や福井に固めて記録的な大量の降雨があり大きな災害をもたらした。この週末も東から西へ進んできた台風が四国に上陸し、2日間で600～1000ミリの大量の降雨量に徳島県や高知県で災害が出ている。

海外ではスペインやポルトガルが大変な猛暑で50度近い高温を記録したとか、フランス、スイスなどは冷夏でアルプスでは雪が降ったとか、インド、バングラデシュでは大洪水が何日も引かずたくさんの死者出ているとか、数多く異常な気象ニュースが伝えられている。地球上すべてのところで気象の異常現象が発生しており、これを我々は自然が人類へ送る警告のメッセージだと受け止めねばならないのではないだろうか。

増え続ける地球人口がもたらすエネルギーの消費量増大や、森林の伐採などの自然破壊によって、地球の温暖化が進んでいることは、周知のことであるが、異常気象も温暖化がもたらしているものであることに疑念の余地は無い。先年京都で世界環境会議が開かれ、消費エネルギーの上限枠を設定し協定化しようと日本が音頭をとったがアメリカは反対し協定書に批准していない。枠を超えている国が余裕のある国から枠を買い取る新しいビジネスが生まれるといわれていたが、世界で一番の消費国が協力しなければ姑息な手段すら纏まらない。増え続ける自動車やクーラーを動かすために、石油や電力需要が増える。イラク戦争にも石油利権を確保したい石油資本の影がみえる。日本では電力会社の圧力で風力発電の上限設定の動きがある。すべての国や企業がそして我々が自利を追い求めているばかりでは、地球人類に及ぶ危機への自然の警告があだになり、何億もの民が命を奪われる日が訪れることが心配される。省エネに関して我々日本人は多少知恵や技術を持ち合わせているのだから、地球環境保護の推進にむけて旗振り役をすることが必要ではなからうか。このようなことは現実にダメージを受けないと理解しがたく、後回しにされやすいことだが、それからではもはや後の祭りになってしまうことである。

☆ 8月の魁基準建値は362円です。

7月の電気銅建値は 1～5日340円 6～14日350円 15～30日360円 平均銅価は354,09円でした。8月の電気銅建値は370円でスタートしました。したがって8月の魁基準建値は $(354,09 + 370) \div 2 = 362,04$ 円未満切捨て362円になります。価格帯はワンランク上がり350円超え400円以下の欄になりますのでご注意ください。



今年は台風の当たり年で各地に大きな被害をもたらしている。これは日本だけでなく、台湾や中国も同様で亡くなった人も多く出ている。今日は防災の日、各地で防災訓練が行われているが、あってほしくないことだが、地震、雷、火事、水害、これらの災害は突然起こるもので、予知することは出来ない。特に地震や水害は防ぎ様も無いことで、出来ることといえば被害を最小限にとどめる備えを普段から心がけておくよりない。不幸にして災害に見舞われたかたには心よりお見舞いを申し上げ、これから先は同じ災害が無きよう祈るばかりである。立春から数えて210日、220日といえば昔から大きな台風が来て稲作にも大きな影響を与えたものものだが、品種改良が進み、早稲の普及で台風の影響によって米作が左右されにくくなっている。大阪市は以前は台風シーズンに高潮による浸水が頻発したが、防潮堤の嵩上げや、下水管の拡張、ポンプ施設の充実により、1975年以降その被害は発生していない。国や自治体がすべきことはこのようなどころにあるのではないだろうか。

オリンピックの日本選手団の活躍をテレビで見ながら、応援に力が入り夜更かしがちになってしまった。終わってメダルの数を見ると、国の勢いを反映しているとあらためて思う。アメリカ、オーストラリア、中国この3カ国は他を圧している。特に中国は2008年の開催国になっているから、4年後の大会ではさらなる大飛躍を見せるだろう。高度成長を続ける中国経済の勢いも、まだまだ続きそうである。上海など一部に不動産バブル現象が見られ、金融引き締め云々の動きがあるやに聞くが、日本の失敗の轍を踏むようなことなく、巧みに調整して進めていくのではないだろうか。オリンピックの選手の活躍に刺激され、自分も何かで頑張ろうと啓発される。この効果が中国の国力をさらに高めるほうに働くことが考えられる。新幹線は間に合わないが、主要幹線3本の高速化は突貫でオリンピック開催に間に合わせる。日本の鉄鋼メーカーの好調はまだまだ続くだろう。メーカーの言い値についていかざるを得ない状態がしばらく続きそうである。

☆ 9月の魁基準建値は362円/kgです

8月の電気銅建値は2～18日370円19～31日360円で推移し平均銅価は365円90銭でした。9月の電気銅建値は360円据え置きでスタートしました。したがって9月の魁基準建値は $(365, 90 + 360) \div 2 = 362$ 、95円未満切捨て362円になります。価格帯は変わらず350円超400円以下の欄です。

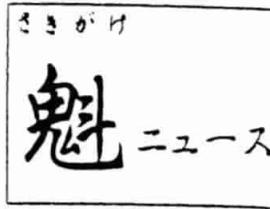


8 個目の 21 号台風が列島を縦断し大雨の被害をもたらした。わけても三重県は大きな被害でお気の毒なことである。例年なら 2～3 個の上陸だから大変多いわけで、ハリケーンも同様らしい。地球温暖化の影響が目に見える形になってきているといえよう。16 号 18 号は風が強かったのも、修復需要で多忙をきわめておられる話も聞くが、自然災害はやはり無いに越したことは無い。ハイチの被害を見るとその悲惨さに目を覆いたくなる。救援物資を殴りあいして奪い合うさまは地獄を見るようなものだ。先進国が協力して地球温暖化への対策を早急に講じなければならない時が来ていると思うが、それにつけても 1997 年京都で開かれた地球温暖化防止条約：締結国会議で採択された京都議定書はその後どうなっているのだろうか。世界最大の CO2 排出国の米国が離脱し、中国が発展途上国のため削減義務が無く、実効性の乏しい状態になっている。京都議定書の理念は温暖化に歯止めをかけること、CO2 排出権取引市場を設け、排出量の多い先進国から少ない後進国に収益をもたらされ富の偏在を和らげることにつながることなどにあると思うが、米国は米経済に打撃を与えかねないあらゆる規制に反対の姿勢を貫いており、米国の世論も地球温暖化問題の関心は低い。エネルギー源の確保には血眼になって、なんでもありの感すらある大国米国の良識と叡智の復活を期待すること切である。

日本のプロ野球もシーズン終わりを向かえファンの目は大リーグのイチローの活躍に向けられている。メジャーリーグの選手の中で非力な彼がバットの芯で球を捉える打撃能力と俊敏な走力そして強い肩で、走攻守に見せる技は、野球というスポーツの原点をみなおす刺激になっているらしい。遠くへ飛ばすホームラン、バッターを三振になぎ倒す 100 マイルの剛速球は派手で、観客も興奮するが、イチローのプレーは地味で大向こうをうならせるものではないが、大リーグの記録を塗り替えることになれば、これはすごいことだ。彼の活躍がいつその刺激となり、日本のプロ野球選手にメジャーを目指す選手が増えていくかもしれない。それは避けられないことかもしれないが、日本のプロ野球界の発展のためには、このたびの経営問題に端を発するスト騒動を機に、ファンから愛想を尽かされぬようさまざまな改善の努力をかさねていかねばならないだろう。他チームの 4 番バッターを引っこ抜きわがチームさえ強ければよいと考える球団が球界の盟主として、我が物顔でのさばっていれば、冒頭の米国の話ではないが前途は明るくない。

☆ 10 月の魁基準建値は 375 円/kg です。

9 月の電気銅建値は 1～8 日 360 円 9～13 日 350 円 14～21 日 360 円 22～30 日 370 円で推移し、平均銅価は 361.90 でした。10 月の電気銅建値は 20 円上が 390 円でスタートしました。390 円の建値は平成 2 年 11 月以来 14 年振りの水準です。現在 LME 銅相場は 3100 ドル、かなり高い水準にきていますから、これからさらに上がるとしても小幅ではないかと考えられます。10 月の魁基準建値は $[361.90 + 390] \div 2 = 375$ 、95 円未満切捨て 375 円になります。価格帯は変わらず 350 円超え 400 円以下の欄です。



月が変わってカレンダーをめくったら、最後の1枚になって、あらためて今年もあと2ヶ月を残すのみなのだ、歳月の移ろいの速さをおぼえました。今年はことのほか災害が多く、新潟中越地震は余震も大きくしかも長きにわたり今も避難生活を強いられている人が多勢おられ、まことにお気の毒なことです。わたくしも福井大地震のおり、1週間ほど余震を避けて野宿をしたことがあり、また、阪神大地震では当社の東大阪センターが大きな被害を受けたこともあって、地震の怖さはよくわかっていますがこればかりは備えあれば憂いなしとはいかないもので、この国土に住む以上、生涯に一度も遭わなければまことにラッキーだと思わなければならないでしょう。願わくは今年はこれ以上何事も無く無事平穏であってほしいと祈るばかりです。

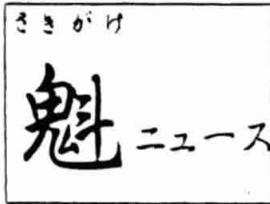
さて、地方分権という言葉が紙上でよく目にするようになってきているが、われわれには余り身近なことではないので無関心だったが、経済特区にかんする報道を見たり、最近の市町村の合併の多いことなどから、政府の考えていることが垣間見えだした。政府は地方自治体には国家予算の中で多額の交付金を渡し、金も出すが口も出さかたちで統括している。しかし、これからは厳しい国家財政の再建をはかるため行政改革の一環として、地方自治に任せる部分を増やし、現在国が行っている徴税権の一部を割譲し、あわせて地方交付金を減らそうとしている。地方自治体の財政はこれを受けて今後厳しいことになっていくことが予想され、さまざまな工夫や合理化を進めていかねばならなくなることは目に見えている。それも行政改革のひとつである事は確かだが、いっぽう地方格差を促進させかねないか危惧される。行政改革のひとつに経済特区の制度が設けられたが、地方自治体が地域振興を促進するためのさまざまな知恵を実施しやすくし、地域経済の活性化を図るものと理解しているが、地方から続々寄せられる申請に、行政規制の壁が立ちはだかり、自治体の思うようにはなかなか行かないのが現状である。一例だが、草加市が市立小学校の改修予算を切り詰めるため天井高3メートルを2,8メートルにすれば工事費がかなり節減されるので、申請したところ、文部科学省は天井高を低くすることは善良な教育環境を保持する規定に触れると却下している。児童が通う塾の天井はさらに2,6メートルと低く、そこで児童からアンケートをとり圧迫感を持つ児童がゼロであるアンケートを添付し再度折衝したところ、来年度中に建築規制の見直し作業に入る回答を得たようだが、中央官庁は事ほどさように規制でしばり改定には極めてスローである。中央の行政に当る官僚は優秀な人材ばかりで国益という高い視野にたち、是非を考えているのだろうが、地方官僚もまた地方行政に真剣に取り組んでいるはずである。しかし現実には中央から地方への分権は微々たるもので、すべて規制で金縛りにかけコントロールしているように思える。総務省が自

治体の窓口であるが、縦割り行政のため所轄官庁との折衝は個々に必要で、辛抱と根気が無ければ勤まらない。そして行政の流れは〔口は出すが金はださない方向〕に向かっている。地方自治体の公務員にお願いしたい。われわれの税金を無駄使いせず、知恵を出し汗を流して中央のお役人に頭を下げさすようないい仕事をしてほしいものである。

☆ 11月の魁基準建値は373円/kgです

10月の電気銅建値は1～6日390円7～13日400円14～19日370円20～31日360円で推移し、平均銅価は376円でした。11月の電気銅建値は370円でスタートしましたので11月の魁基準建値は $(376+370) \div 2 = 373$ 円になります。価格帯は前月同様350円超え400円以下の欄です。

平成16年12月1日



本年もいよいよ残り僅かになり、皆様には大変お忙しいことと拝察いたします。台風の影響もあるでしょう。また定期的な改修とか、新築工事も出てきていますから、仕事は増えていると思います。そのうえに材料が不足気味で、手当てに苦労される向きもあろうかと思えます。このような事になるとはほんこの間まで思いもしなかったことですが、仕事に追いかけることは結構なことではないでしょうか。私ども非鉄のほうは、さほどのことは無く、蚊帳の外と言えるかもしれませんが、お得意先様が繁盛しておられるのは羨ましいだけでなく嬉しいことです。しかし、一方で台風や地震の被害を受けられた方々がいまでもその大きなダメージを引きずっておられ、まことにお気の毒なことであり、その心労を思いますといつわが身にいたるや判らず、出来るだけの支援をさせてもらわねばと思えます。

さて、ご愛顧いただいております魁、はやぶき、はればれ、シャダンルーフも原材料の価格高騰のため、価格改訂のお願いをせざるを得なくなりました。銅は従来から電気銅建値にスライドする形態になっておりますが、カラスステンレス、耐摩GLカラー鋼板、カップーフテンなどはご高承の如く価格が上がり、もはや企業努力では吸収できなくなり、やむなく改定させていただきたいと存じます。勿論、ご愛用いただいておりますを念頭に、最小限の改訂に抑えており、今以上に原材料価格の上昇があれば再度のお願いをせねばならないかと心配しております。世界経済の動向、わけても隣国中国の動向が需給関係に及ぼす影響力を考えますと、未だしばらくは堅調で推移しそうですが、今以上に上がることがあるとしても落ち着くところは今ぐらいの水準ではないかと希望的観測をしています。

なお、新しく（シャダンルーフ20）を発売いたします。カタログは新年早々お手許におとどけ申しますので、従来のシャダンルーフ（シャダンルーフ12に改名）とあわせて設計PR活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本年賜りましたご愛顧に厚くお礼申し上げますとともに、皆様のご健勝に新年をお迎えになられますようお祈り申し上げます。

☆ 12月の魁基準建値は378円/kgです

11月の電気銅建値は1～11日370円12～30日380円で推移し平均376円でした。12月の電気銅建値は380円でスタートしました。従って12月の魁基準建値は $(376+380) \div 2 = 378$ 円になります。価格帯は350円超え400円以下の欄で前月同様変わりません。